

セ試リスニングテストの試験時間 30分。解答はマーク方式！

16年9月26日(日)、現高2生約5万人による試行テスト実施

平成16年6月

旺文社 教育情報センター

文部科学省と大学入試センターは15年11月、18年センター試験から導入されるリスニングテストについて、配点や個別音源機器など、実施概要を既に発表している(当センター15年11月既報)。その際、試験時間及び身体障害者への対応は定まっていなかったが、この程それらが決まった。

また、今年9月26日に実施予定の試行テストの概要も明らかになったので、あわせて紹介する。

18年リスニングテスト実施概要

<試験時間30分、50点満点、解答はマーク方式>

センター試験「英語」リスニングテストの実施概要は、次のとおりである。

1. 位置付け

リスニングテストは、科目「英語」の一領域として実施する。

2. 試験時間

30分(筆記試験は80分)

3. 配点

50点満点(筆記試験は200点満点)

4. 音源

個別音源機器

5. 試験会場

大学の教室で実施

*リスニングテストを大学で実施することから、現行どおりセンター試験全日程を大学で実施する。

6. 解答方法

英語の音声問題を聴き、問題冊子に書かれた問いについて正解をマーク方式で解答させる。

7. 受験方法

科目「英語」の受験者は、筆記とリスニングの双方を解答することとする。なお、他の外国語科目受験者には、リスニングテストの受験は認めない。

*教科「外国語」は、出願時に受験科目を登録させる仕組みとする。

8. 身体障害者への対応方法

障害の種類・程度に応じ、解答に要する時間等を考慮した試験時間及び解答方法等について、現行のセンター試験における受験特別措置と同様の配慮を行うこととする。

リスニングテストの音声部分問題の聞き取りに関しては、個々の入学志願者の障害の種類・程度に応じ、実施方法及び使用機器について、本人の申告により選択できるなど、特別な配慮を行うこととする。

聴覚障害者のうち、重度難聴者については、本人の申請により、診断書等に基づき審査の上、リスニングテストを免除することとする。

16年9月26日実施の試行テスト概要

<筆記試験 20分、リスニングテスト 30分、アンケート調査 10分>

実施の目的

18年センター試験から実施する「英語」のリスニングテストの円滑な実施に資するために、センター試験において試験場を設定するすべての大学が「英語」のリスニングテストの実施方法等についての実際の経験を通して理解を深めるとともに、試験問題の難易度を調査・分析し、その結果を18年の試験問題に反映することを目的とする。

実施時期

16年9月26日(日)

実施科目等

「英語」(筆記試験、リスニングテスト)、アンケート調査

試験時間

筆記試験 20分、リスニングテスト 30分、アンケート調査 10分

対象者

高等学校第2学年に在籍の者、約5万人

使用機器等

個別音源機器一式(プレーヤー、レシーバー<ヘッドホン又はイヤホン>) 記録媒体(別紙のイメージ図参照)

試験問題等の取扱い

試行テストで使用した試験問題冊子、答案用紙、個別音源機器一式については、すべて回収する。ただし、試験問題(音声問題を含む)は、年内には公表する。

受験料

無料

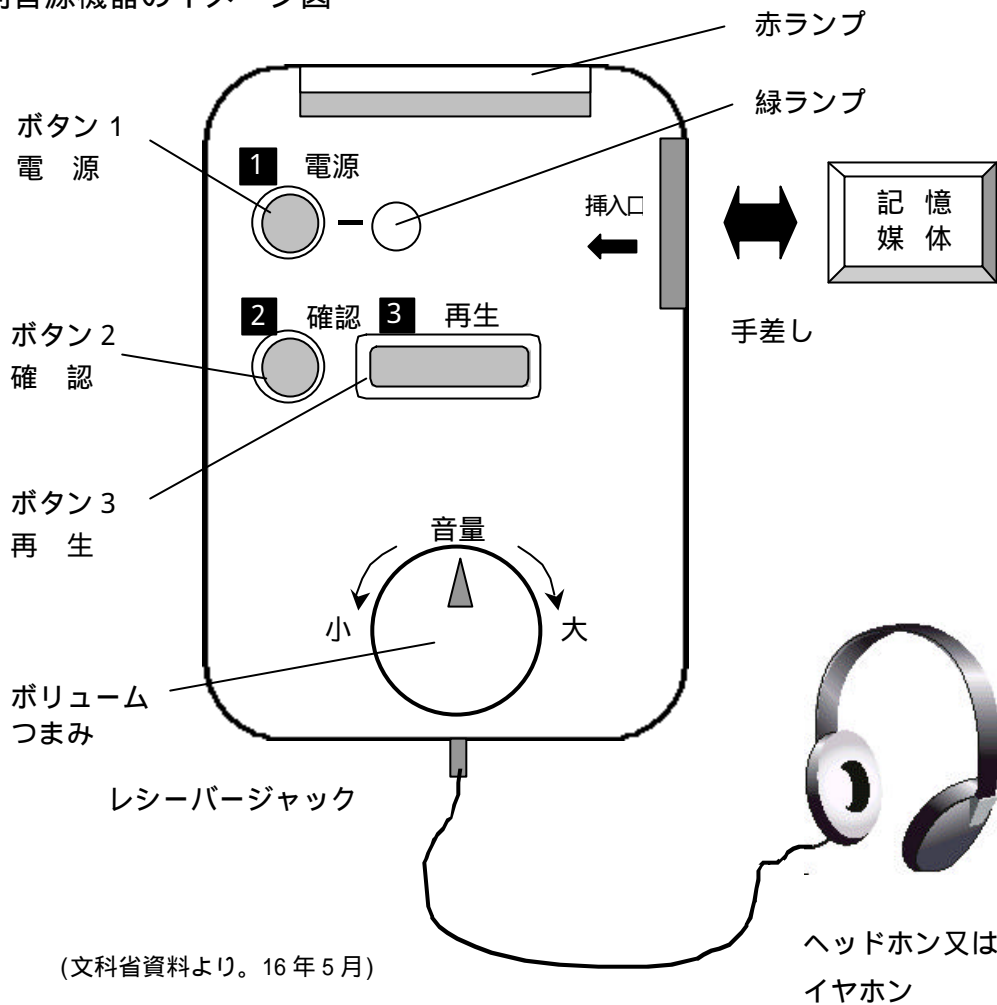
成績の取扱い

個人別の成績については、通知しない。

身体障害者に対する措置

障害の種類・程度に応じた措置を行う。(一部の試験場)

個別音源機器のイメージ図



< 受験者の選定、試行テストの公表 >

試行テストの受験生約5万人の選定については、言及されていない。しかし、センター試験の試験場を設定する全大学がリスニングテスト実施の“予行演習”を行うことができるようにするためには、受験生を全国47都道府県に割り振る必要がある。割り振りの人数は、例えば16年センター試験の都道府県別志願者数を基にすると、東京都約5,000人、愛知県約3,000人、神奈川県約2,500人、大阪府約2,500人、埼玉県約2,500人、兵庫県約2,000人などとなるのだが。

また、各高等学校の選定や受験生の選定(公募制、指定制なども含め)方法についても現段階では明らかにされていない。

< 試行テストはHP上で公表 >

試行テストの問題冊子や個別音源機器など、すべての試験問題は、試験終了後回収される。そのため、非受験者等に対するリスニングテストの試作問題公表は、音声問題も含め、大学入試センターのHP上で年内中に公表するとしている。

リスニングテストの利活用

<リスニングテストは概ね利用>

センター試験「英語」の受験生は全員リスニングテストを受け、筆記試験(200点満点)とリスニングテスト(50点満点)のそれぞれの得点が大学側に提供される。「英語」以外の「外国語」(200点満点)との換算方法や配点の割合なども含め、判定に利用するか否かは各大学・学部委ねられている。

現段階で発表されている18年入試科目をみると、国公立大ではほとんどがリスニングテストを判定に利用している。ただ、現時点ではリスニングテストについての記載がなかったり、後日発表などとするところが公立大に比較的多くみられる。また、判明している私立大のセンター試験利用入試についても、概ね利用される状況である。

<リスニングテストを判定から除外する大学>

現時点でリスニングテストの利用を見送ったところは、弘前大-医<医>、千葉大-文<行動科学>、東大-全科類、東京海洋大-全学、滋賀医大-全学(推薦を除く)、京大-総合人間、鳥取大-農<獣医>、島根大-医<医>・法文<社会文化>・生物資源科学(一部学科)、九大-理<数学>(後)、前橋工科大、長野県看護大-看護、高知女大-看護・社会福祉などである。このうち、2次でリスニングテストを課すのは東大-全科類(前)と京大-総合人間(後)である。

<2次リスニングテストとの関係>

リスニングテストをセンター試験で実施することに伴い、現時点では北大(前)、小樽商大、筑波大-国際総合・医、岐阜大-教育・医、名大、阪大-理、岡山大、札幌医大などが2次のリスニングテスト廃止を明記している。

一方、秋田大-教育文化、岩手大、東京外語大、一橋大、福井大-教育地域科学、大阪外語大、長崎大、愛知県大-外国語、北九州市大-外国語などでは、センター試験のリスニングテストを利用するとともに、2次でも従来どおり課している。

なお、現行の2次でリスニングテストを課している宇都宮大、金沢大などは、2次でも課すかどうか、現時点では未定である。

<リスニングテストの配点>

現時点ではリスニングテストも含め、入試科目の配点を明記しているところは少ないが、「筆記試験200点、リスニングテスト50点、計250点を200点に圧縮」する大学がほとんどである。

<筆記試験との比較>

信州大-人文・教育<理数科学教育>では、筆記試験のみ(200点満点)と、筆記試験+リスニングテスト(250点満点を200点満点に換算)の得点を比較し、高得点の方を採用する。